



平成21年3月期 決算説明会資料

平成21年6月1日（大阪）

石原薬品株式会社

（大証二部 4462）

目 次

➤ 決算の概要

(代表取締役社長 竹森 莞爾)

平成21年3月期の実績
営業品目別売上高3期比較
営業の状況
平成22年3月期の業績予想
平成22年3月期の業績予想のポイント
通期の見通し
営業品目別売上高推移
中期経営計画について
経営の基本方針
当社の特徴
目標とする経営指標等
株主還元・内部留保の考え方
業績の推移と配当

➤ 決算の詳細

(常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要
営業品目別売上高の推移
製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移
貸借対照表の概要
キャッシュ・フロー計算書の概要
キャッシュ・フローと設備投資額の推移
研究開発人員と研究開発費

➤ 新技術、新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

技術動向、新製品開発の状況
めっき製品紹介
部品紹介

《参考資料》

総資産・純資産
1株当たり純資産・自己資本比率の推移

➤ 決算の概要 (代表取締役社長 竹森 莞爾)

平成21年3月期の実績

(単位：億円、%)

	平成20年3月期	平成21年3月期						修正発表値	修正発表との差異
	年間 (a)	1/4	2/4	3/4	4/4	年間 (b)	差異 (b)-(a)	金額 (c)	差異 (b)-(c)
売上高	159.8	39.4	39.8	33.0	20.8	133.0	26.8	133.9	0.9
売上総利益	45.4	10.5	10.1	7.6	3.7	31.9	13.5	32.9	1.0
営業利益	15.8	2.6	2.7	0.6	2.3	3.6	12.2	3.5	0.1
経常利益	16.0	3.0	2.8	0.5	2.0	4.3	11.7	4.0	0.3
当期純利益	8.9	1.9	0.8	2.4	1.0	0.7	9.6	1.0	0.3
1株当たり当期純利益(円)	121.10					9.76			

平成20年3月期との差異内容

◆ 売上高 (26.8億円)

製品売上 18.2億円
商品売上 8.5億円

(金属表面処理剤
及び機器等 15.5億円
電子材料 11.4億円)

◆ 売上総利益 (13.5億円)

製品売上総利益 13.5億円

- ・売上減(需要減、為替円高影響)
- ・原材料価格の高騰による影響
- ・販売品目構成変化(製品比率低下)

◆ 当期純利益 (9.6億円)

営業利益 12.2億円
(売上総利益 13.5億円
販管費減 + 1.3億円)
営業外損益 + 0.5億円
経常利益 11.7億円
特別損益 0.5億円
(株式評価損他)
法人税等 2.5億円
当期純利益 9.6億円

営業品目別売上高 3 期比較

(単位：億円，%)

	平成20年3月期		平成21年3月期 (a)		平成22年3月期 (予想)(b)		差異 (b)-(a)
製品 金属表面処理剤及び機器等	54.8	34.3%	39.2	29.5%	40.2	33.5%	1.0
電子材料	4.6	2.9%	3.5	2.6%	2.6	2.2%	0.9
電子関連分野 計	59.4	37.2%	42.7	32.1%	42.8	35.7%	0.1
自動車用化学製品等	11.3	7.1%	10.0	7.5%	10.1	8.4%	0.1
工業薬品	1.5	0.9%	1.4	1.1%	1.3	1.1%	1.0
製品合計	72.3	45.2%	54.1	40.7%	54.2	45.2%	0.1
商品 金属表面処理剤及び機器等	7.0	4.4%	7.1	5.4%	7.0	5.8%	0.1
電子材料	31.5	19.7%	21.3	16.0%	14.0	11.7%	7.3
電子関連分野 計	38.5	24.1%	28.4	21.4%	21.0	17.5%	7.4
自動車用化学製品等	4.2	2.7%	5.3	4.0%	5.2	4.3%	0.1
工業薬品	44.7	28.0%	45.2	33.9%	39.6	3.3%	5.6
商品合計	87.5	54.8%	78.9	59.3%	65.8	54.8%	13.1
合 計	159.8	100.0%	133.0	100.0%	120.0	100.0%	13.0

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

営業の状況

電子関連分野

売上高 71.1億円 (前年同期 98.0億円 27.4%減) 売上構成比 53.5%

- 期前半までやや弱含みで推移。金融危機に伴う世界的な消費低迷とともに需要が急速に縮小し、家電や電子部品メーカーは年明け以降、大幅な減産を余儀なくされ、期後半から需要が急速に減少した。

金属表面処理剤及び機器等

売上高 46.3億円 (前年同期 61.8億円 25.0%減)

- 電子部品用外装めっき液
国内・海外市場ともに半導体、チップ、COF等対応する電子部品で生産調整が行われ需要が急減、円高の影響もあり、販売は厳しい状況で推移。
- 化成処理液自動管理装置及び試薬
ユーザーの設備導入予定の延期や中止、生産減による試薬等の使用量減で販売は厳しい状況で推移。

電子材料

売上高 24.8億円 (前年同期 36.1億円 31.5%減)

- ニッケル超微粉：需要先のセラミックコンデンサの大幅な生産調整の影響等を受け販売は前年を割り込んだ。
- 機能材料加工品：対応市場の急激な縮小により、ユーザーでの生産縮小、開発案件の延期等により機能材料の部品需要が急減。

営業の状況

自動車用品分野

売上高 15.3億円（前年同期 15.5億円 1.8%減）売上構成比 11.5%

- 車検時に使用する整備ケミカル需要の低迷。
- 軽微なキズ等の補修はしない傾向など、自動車ケミカル全般の市場規模縮小。
- カーメーカー向けエアコン消臭剤等は伸長。

工業薬品分野

売上高 46.6億円（前年同期 46.2億円 0.8%増）売上構成比 35.0%

- 鉄鋼業界は期後半以降の環境が大きく変動し内外需ともに急減、フル生産から一転減産の影響を受けた。
- 建材関係は需要低下による数量減及び販売単価低下により、低調な状況で推移したが、一部原材料価格値上げや電磁鋼板向け薬剤、産廃関係薬剤等は伸長した。

平成22年3月期の業績予想 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：億円、%)

	平成21年3月期 (実績)								平成22年3月期 (予想)				
	1/4	2/4	上期	3/4	4/4	下期	年間	伸率	上期	下期	年間	伸率	
売上高	39.4	39.8	79.2	33.0	20.8	53.8	133.0	16.8%	52.0	68.0	120.0	9.8%	
営業利益	2.6	2.7	5.3	0.6	2.3	1.7	3.6	77.1%	1.3	5.0	3.7	1.9%	
経常利益	3.0	2.8	5.8	0.5	2.0	1.5	4.3	72.9%	1.0	5.4	4.4	1.1%	
当期純利益	1.9	0.8	2.7	2.4	1.0	3.4	0.7		1.0	3.7	2.7		
1株当り当期純利益(円)								9.76				38.92	
1株当り配当額(円)								36				30	

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

平成22年3月期の業績予想のポイント

売上高・売上総利益

- (1) 上期は前年度下期ベース、下期は前年度上期ベースの85%見込む。
- (2) 電子関連分野の動向（めっき液中心に電子関連分野の下期回復を見込む。）
- (3) 製品ほぼ前期並みを維持、商品は業界動向より伸びが鈍化を見込む。
(製品比率アップ)
- (4) 原材料価格落ち着き原価アップ要因の改善 ⇨ 収益性改善。

経費・人件費の圧縮

- 売上高急減の中でも利益確保のため、人件費を含む総経費の圧縮を図る。
- 次の成長のための研究開発、設備投資は継続する。

研究開発費：930百万円計画（製品売上高の17%）前年比120%

- 新製品開発、新技術開発の促進（銅めっき関連、ナノ粒子関連他）

設備投資：400百万円計画

- 開発案件に係わる研究機器等取得

配当政策

- 安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案して、中間配当金15円、期末配当金15円の年間配当金30円を予定。

通期の見通し

電子関連分野

- 電子部品業界・・・電機・自動車各社が大幅減産を実施、在庫調整の進展により需要が上向くとの見方もあるが、デジタル家電等の最終製品の需要の盛り上がりには欠ける状況もある。

金属表面処理剤及び機器等

- 電子部品用外装めっき液：
 - ・国内・海外市場において他社介入を防止。
 - ・稼動するユーザーのめっきラインの補充分売上の確保と需要回復時に向けた管理の徹底。
 - ・新規開発テーマ探索の促進。
- 化成処理液自動管理装置及び試薬：
 - ・設備導入を延期、凍結したユーザーの動向等の情報収集に努め、コスト低減、合理化、工程改善という視点からユーザーのニーズに対応できる装置開発、提案を積極的に行う。

電子材料

- ニッケル超微粉：需要回復時に向けユーザーとの関係強化。
- 機能材料加工品：既存ユーザーの管理の徹底と新たな業界へのPR、販売先の開拓への取り組み。

通期の見通し

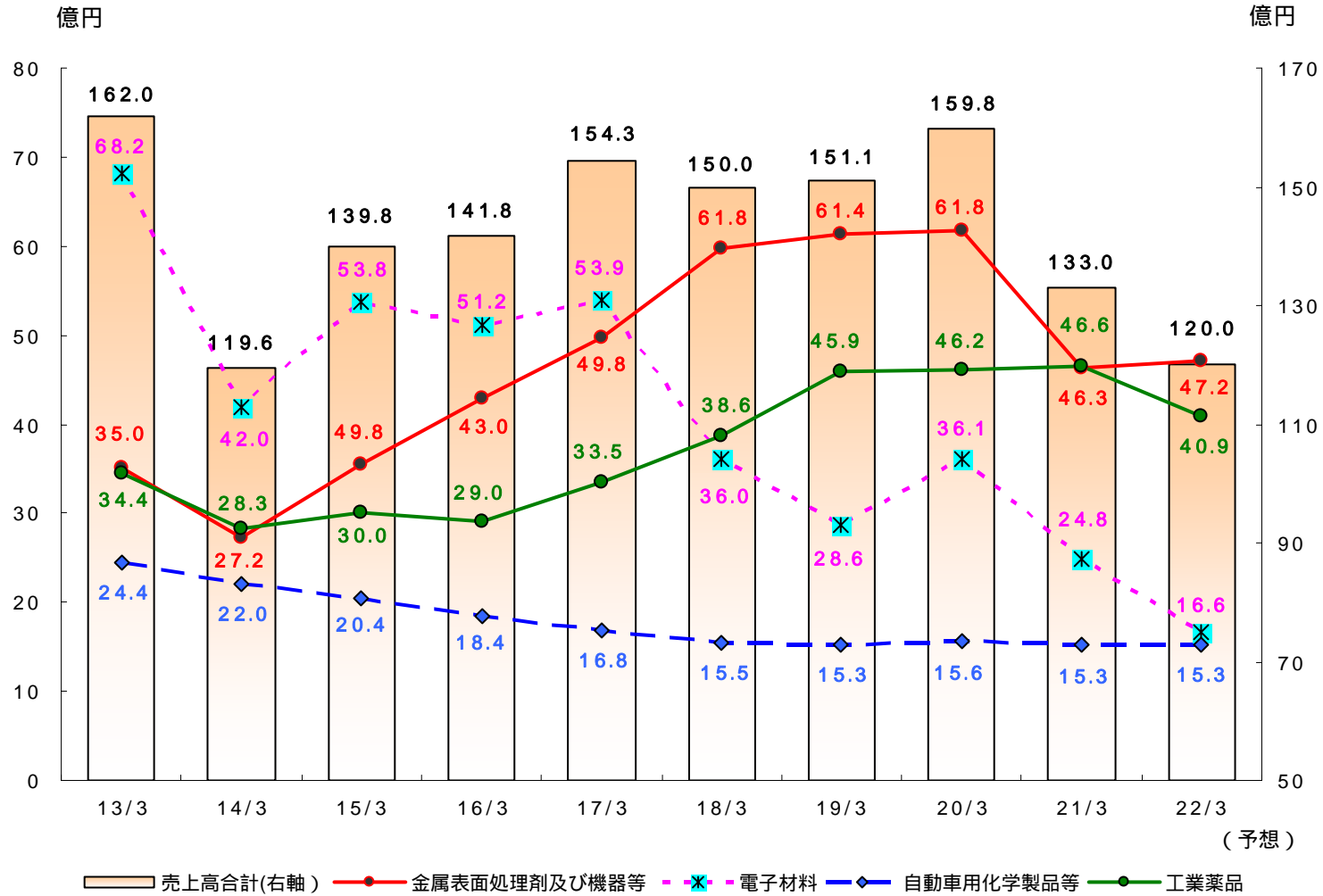
自動車用品分野

- ▶ 業務用自動車ケミカルを中心に大手自動車メーカー向けOEM商材、自動車補修用コンパウンド等の拡販に取り組む。

工業薬品分野

- ▶ 現有の鉄鋼、化学、環境、リサイクル関連の他、新規性の高い商材活用による新規市場への展開により売上拡大を図る。

営業品目別売上高推移



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

中期経営計画について（平成20年6月発表の中期経営計画）

基本的な取り組み方針

- 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行う。
- 基礎となる3つの分野、4つの事業をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。
- 自社製品比率を高め、売上総利益の拡大をはかり収益力の高い会社を目指す。
- 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ第5の事業を育成する。

3つの分野	4つの事業
電子関連分野	金属表面処理剤及び機器等
	電子材料
	（新分野）
自動車用品分野	自動車用化学製品等
工業薬品分野	工業薬品

中期経営計画について（平成20年度～平成22年度予想）

目 標

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期 ～平成24年3月期
	実績（構成比）	実績（構成比）	予想（構成比）	
製品売上高	72.3億円 (45.2%)	54.1億円 (40.7%)	54.2億円 (45.2%)	
商品売上高	87.5億円 (54.8%)	78.9億円 (59.3%)	65.8億円 (54.8%)	
計	159.8億円	133.0億円	120.0億円	
経常利益	16.0億円	4.3億円	4.4億円	
当期純利益	8.9億円	0.7億円	2.7億円	
売上高経常利益率	10.1%	3.2%	3.7%	

当社ではこれまで三カ年の中期経営計画を策定してきましたが、前期後半より対応する事業分野で需要の急激な落ち込みがあり、回復の兆しはありますが、現状では今後三カ年の事業環境を見定めることが困難であることから、今しばらく景気動向・需要動向を見極めることとしております。

経営の基本方針

経営の基本方針

- 当社は自己開発・商品開発・市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。
- このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

全てのステークホルダーの満足度向上

当社の特徴

事業領域

- 界面化学を中核技術に3つの分野で4つの事業を展開
「全天候型経営」による事業リスクの分散

ニッチ市場で高い占有率

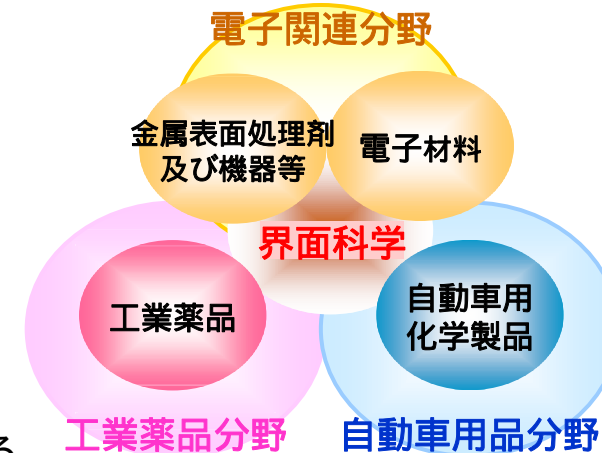
- はんだめっき液で国内トップシェア
- 鉛フリー製品（環境配慮型製品）

研究開発型企业

- 強固な研究開発体制
 - ・ 全従業員の1/3程度を研究開発人員に充てる
 - ・ 製品売上高の10%程度を研究開発費に投入
 - ・ 各大学・試験所との連携による研究開発

技術サポート

- 技術サポート力を基盤に、技術フォローまで含めた高付加価値サービスの提供



安定した事業基盤、財務基盤に基づくパートナー企業との信頼関係の上で新製品開発・新市場開発を展開しています。

目標とする経営指標等

目標とする経営指標

- ▶ 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を維持し、売上総利益の拡大をはかる。
- ▶ 売上高経常利益率10%以上を維持する。

この2つの目標の達成を視野に入れながら当期純利益を拡大し、ROE及びEPSの更なる向上を図っていくことが、企業価値向上につながるものと考えます。

	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (予想)
製品割合 (%)	33.7	40.2	38.9	41.8	42.3	48.8	49.3	45.2	40.7	45.2
売上高経常利益率 (%)	6.5	3.9	6.4	8.3	10.2	12.3	12.5	10.1	3.2	3.7
ROE (%)	5.3	2.0	4.6	6.9	9.1	9.6	9.2	6.9	-0.6	2.2
EPS (円/株)	64.77	24.85	56.73	88.77	126.03	145.09	155.00	121.10	-9.76	38.92

当社を取り巻く外部環境は日々刻々と変化し、現在のような金融環境の激変期にあっては、ROEの向上とともに企業の持続性も重要な経営課題として認識しております。このような状況のもとでは、強固な財務状況を維持し、株主、取引先等、全てのステークホルダーに安心していただける基盤の整備も重要であると考えております。

株主還元・内部留保の考え方

株主還元の基本方針

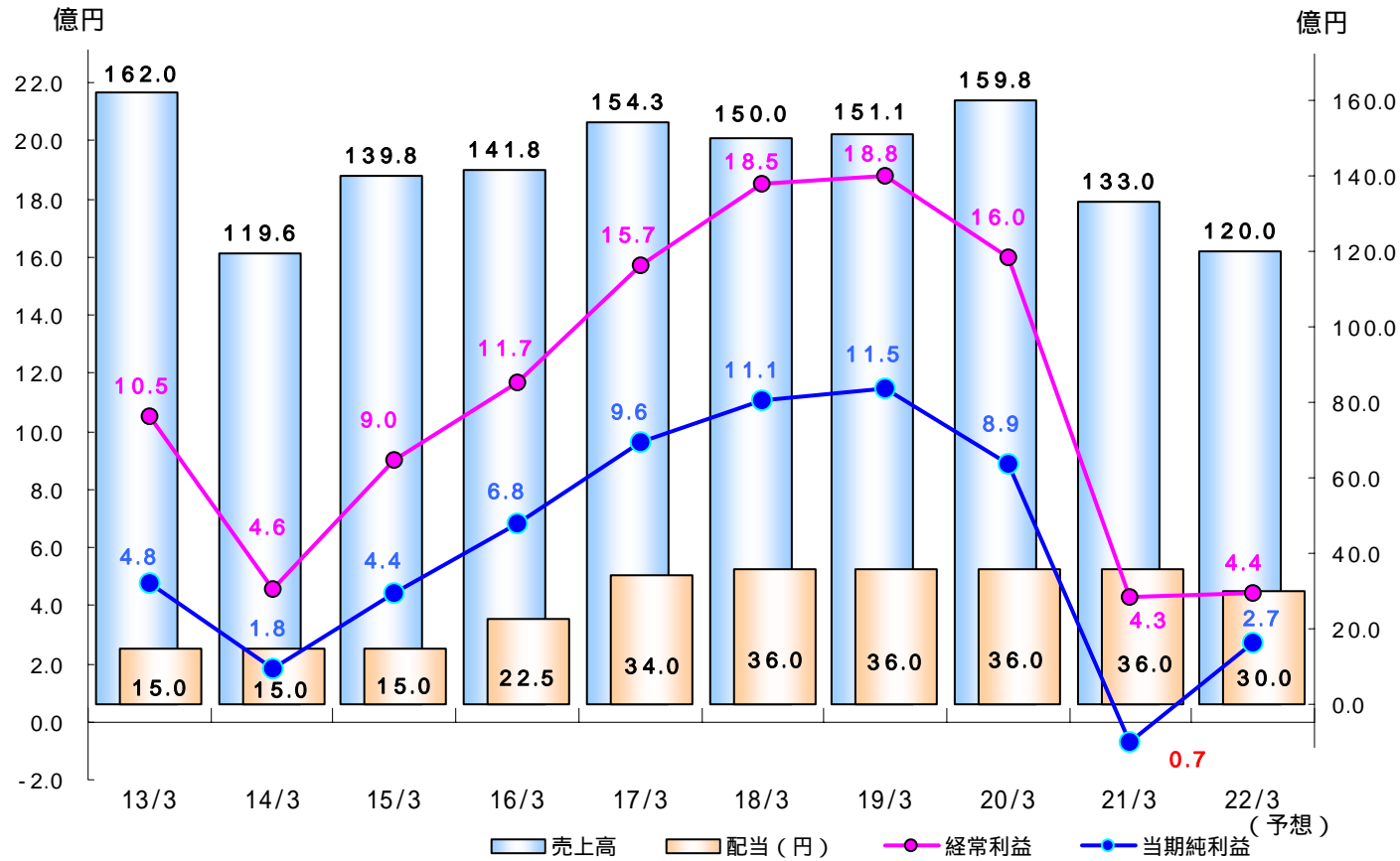
安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、業績に応じ増配を検討するなど弾力的な還元策を図っていく方針であります。自己株式の取得等も資本政策として合わせて検討し、株主の皆さまに満足していただける株主還元を検討してまいります。

内部留保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実を図ってまいりますとともに、その活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

なお、株主還元と内部留保のバランスについては、当社のおかれた環境を考慮して慎重に検討を継続していきます。

業績の推移と配当



	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (予想)
配当性向	23.15%	60.35%	26.44%	25.35%	26.98%	24.81%	23.23%	29.73%		77.10%

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

➤ 決算の詳細 (常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要

(単位：百万円)

	平成20年3月期		平成21年3月期		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	15,983	100%	13,305	100%	2,678
売上原価	11,434	71.5%	10,112	76.0%	1,322
売上総利益	4,548	28.5%	3,193	24.0%	1,355
販売費及び一般管理費	2,963	18.6%	2,830	21.3%	133
営業利益	1,585	9.9%	363	2.7%	1,222
営業外利益	111	0.7%	96	0.7%	15
営業外費用	90	0.5%	24	0.2%	66
経常利益	1,606	10.1%	435	3.3%	1,171
特別利益	3	0.0%	19	0.1%	16
特別損失	170	1.1%	239	1.8%	69
税引前当期純利益	1,439	9.0%	216	1.6%	1,223
法人税等	540	3.4%	287	2.1%	253
当期純利益	898	5.6%	71		969

- * 売上高・・・ 2,678百万円
 - 製品売上・・・ 1,822百万円
 - 商品売上・・・ 856百万円
- * 売上総利益・・・ 1,355百万円
 - 売上総利益率
 - 28.5% 24.0% (4.5%)
 - (H20.3期) (H21.3期)
 - 売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
(H20.3期)	45.2%	: 54.8%
(H21.3期)	40.7%	: 59.3%
 - 売上総利益率の変化

	製品	商品
(H20.3期)	54.1%	: 7.2%
(H21.3期)	47.5%	: 7.9%
- * 販売費及び一般管理費・・・ 133百万円
 - 運賃及び荷造費・・・ 36百万円
 - 業務委託費・・・ 20百万円
 - 旅費交通費・・・ 8百万円
 - 研究開発費・・・ +46百万円
 - 貸借料 リース料・・・ 8百万円
 - 人件費・・・ 38百万円
 - その他・・・ 69百万円
- * 営業外費用・・・ 66百万円
 - 為替差損減
- * 特別損失・・・ +69百万円
 - 投資有価証券評価損増
- * 法人税等・・・ 253百万円
 - 所得減等

営業品目別売上高の推移

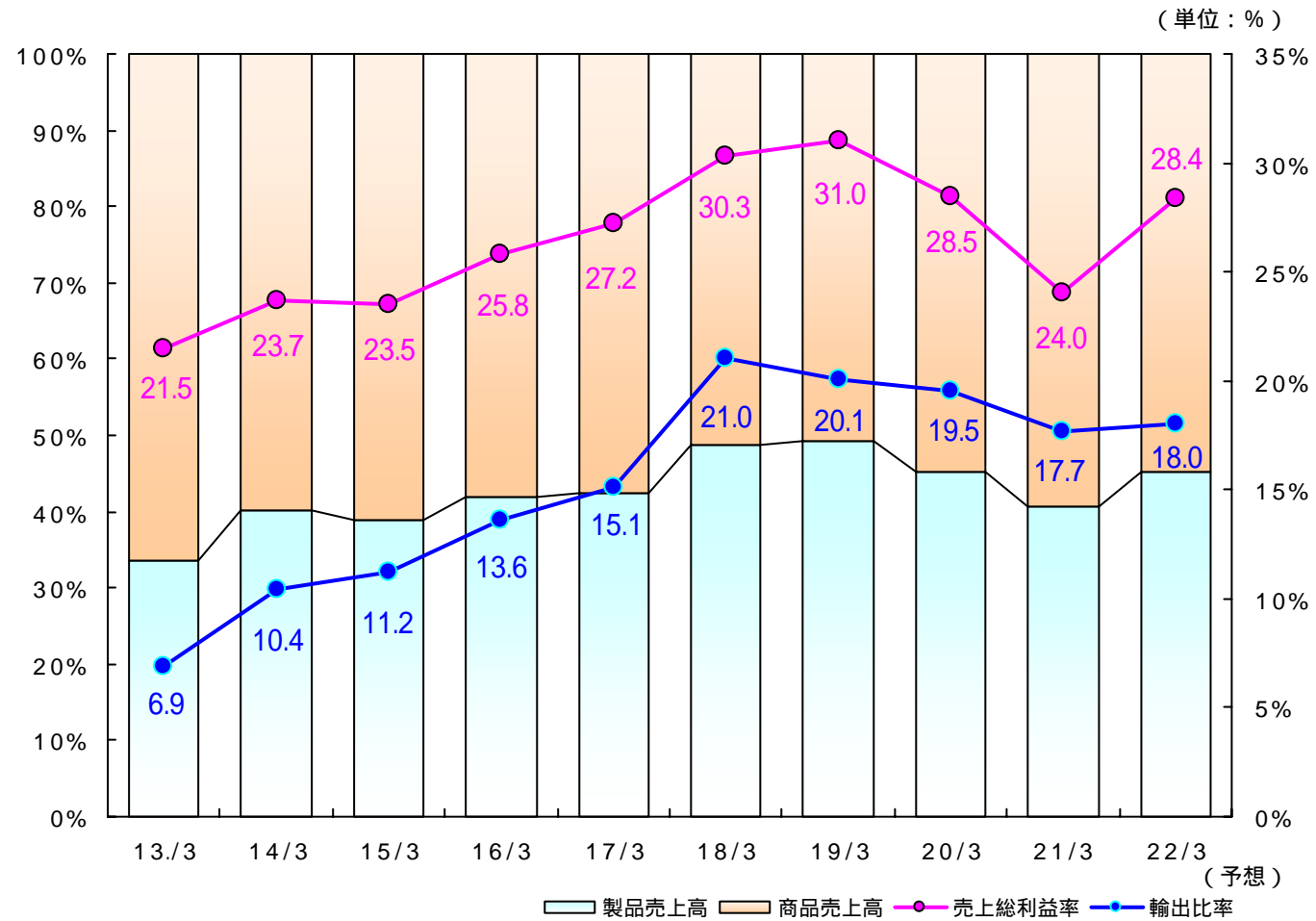
(単位：億円)

平成21年3月期（実績）	1/4	2/4	3/4	4/4	年間合計
金属表面処理剤及び機器等	15.1	15.4	10.5	5.3	46.3
電子材料	7.7	8.1	6.1	2.8	24.8
自動車用化学製品等	4.0	4.2	3.8	3.3	15.3
工業薬品	12.6	12.1	12.6	9.3	46.6
合計	39.4	39.8	33.0	20.8	133.0

平成22年3月期（予想）	上期	下期	年間合計
金属表面処理剤及び機器等	17.8	29.4	47.2
電子材料	7.9	8.7	16.6
自動車用化学製品等	7.5	7.8	15.3
工業薬品	18.8	22.1	40.9
合計	52.0	68.0	120.0

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

貸借対照表の概要

(単位：百万円)

	平成20年3月期	平成21年3月期	増減金額
(資産の部)			
流動資産	9,225	7,506	1,718
現預金	2,637	3,042	405
売上債権	4,460	2,791	1,669
有価証券	810	415	395
棚卸資産	1,176	948	228
その他	139	309	170
固定資産	8,255	7,007	1,248
有形固定資産	2,774	2,692	82
無形固定資産	14	15	1
投資その他の資産	5,466	4,300	1,166
資産合計	17,480	14,514	2,966
(負債の部)			
流動負債	4,153	1,998	2,155
仕入債務	3,526	1,672	1,854
1年以内返済予定 長期借入金	57	30	27
その他	570	296	274
固定負債	311	369	58
長期借入金	6	26	20
その他	305	343	38
負債合計	4,465	2,367	2,097
(純資産の部)			
純資産合計	13,015	12,146	868
負債・純資産合計	17,480	14,514	2,966

主な資産・負債の増減内容

- * 現預金・・・ + 405百万円
- * 売上債権・・・ 1,669百万円
売上減少に伴う売上債権の減
- * 有価証券、投資有価証券・・・ 1,576百万円
債券の償還 1,646百万円
資金運用 + 518百万円
評価替 448百万円
- * 棚卸資産・・・ 228百万円
商品 (NI粉) 378百万円
原材料 (めっき関係他) + 123百万円
その他 + 27百万円
- * 流動資産 (その他)・・・ + 170百万円
未収税金 (還付) + 220百万円 他
- * 有形固定資産・・・ 82百万円
設備投資 + 185百万円
減価償却費 267百万円
- * 仕入債務・・・ 1,854百万円
売上減少に伴う仕入減による
- * 流動負債 (その他)・・・ 274百万円
未払法人税 233百万円
(前年 233百万円、当年 0)
- * 純資産・・・ 868百万円
自己株式取得 444百万円
評価差額金 86百万円
剰余金処分 + 750百万円
繰越利益剰余金 1,088百万円

キャッシュ・フロー計算書の概要

現金及び現金同等物の増加・・・405百万円(期末残高 3,033百万円)

▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー・・・84百万円

減価償却費 270百万円、売上債権減少 1,669百万円、棚卸資産減少 228百万円
仕入債務減少 1,854百万円、法人税等支払 524百万円等

▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー・・・1,037百万円

投資有価証券取得による支出 517百万円、売却・償還による収入 1,670百万円等

▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー・・・722百万円

長期借入金の返済による支出 57百万円、自己株式取得による支出 444百万円
配当金支払 266百万円等

(単位：百万円)

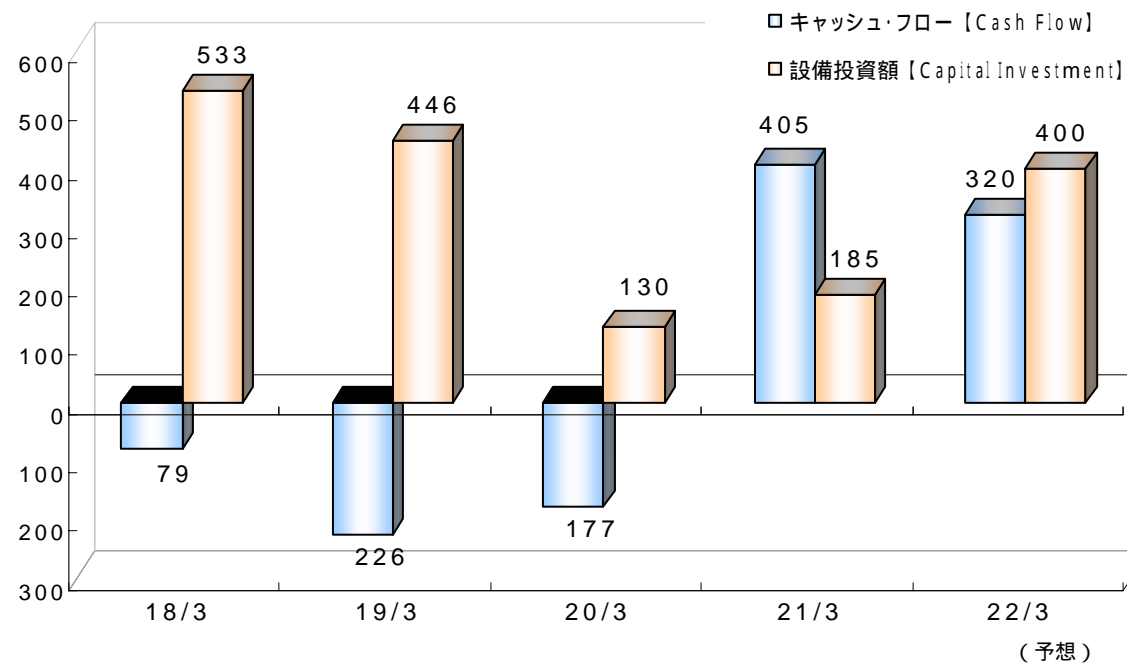
	平成20年3月期	平成21年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,057	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	871	1,037
財務活動によるキャッシュ・フロー	326	722

現金及び現金同等物の増減額	177	405
現金及び現金同等物の期首残高	2,806	2,628
現金及び現金同等物の期末残高	2,628	3,033

キャッシュ・フローと設備投資額の推移

(単位:百万円)

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (予想)
キャッシュ・フロー [Cash Flow]	79	226	177	405	320
設備投資額 [Capital Investment]	533	446	130	185	400
減価償却費 [Depreciation Expenses]	213	239	252	270	300



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

研究開発人員と研究開発費

	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (予想)
従 業 員	161	180	182	178	183	190
研究開発人員	43	53	55	58	62	68
割 合	概ね1/4が研究開発要員 1/3へ					

(単位：百万円) 単位：百万円)

研究開発費	559	639	680	724	770	930
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	50	54	104	111	68	180
製品売上高 研究開発比率	8.6%	8.7%	9.1%	10.0%	14.2%	17.2%

研究開発型事業の多い当社では、守秘義務契約により進められているプロジェクトが多く、それら詳細情報の開示には制限が課せられております。

➤ 新技術・新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

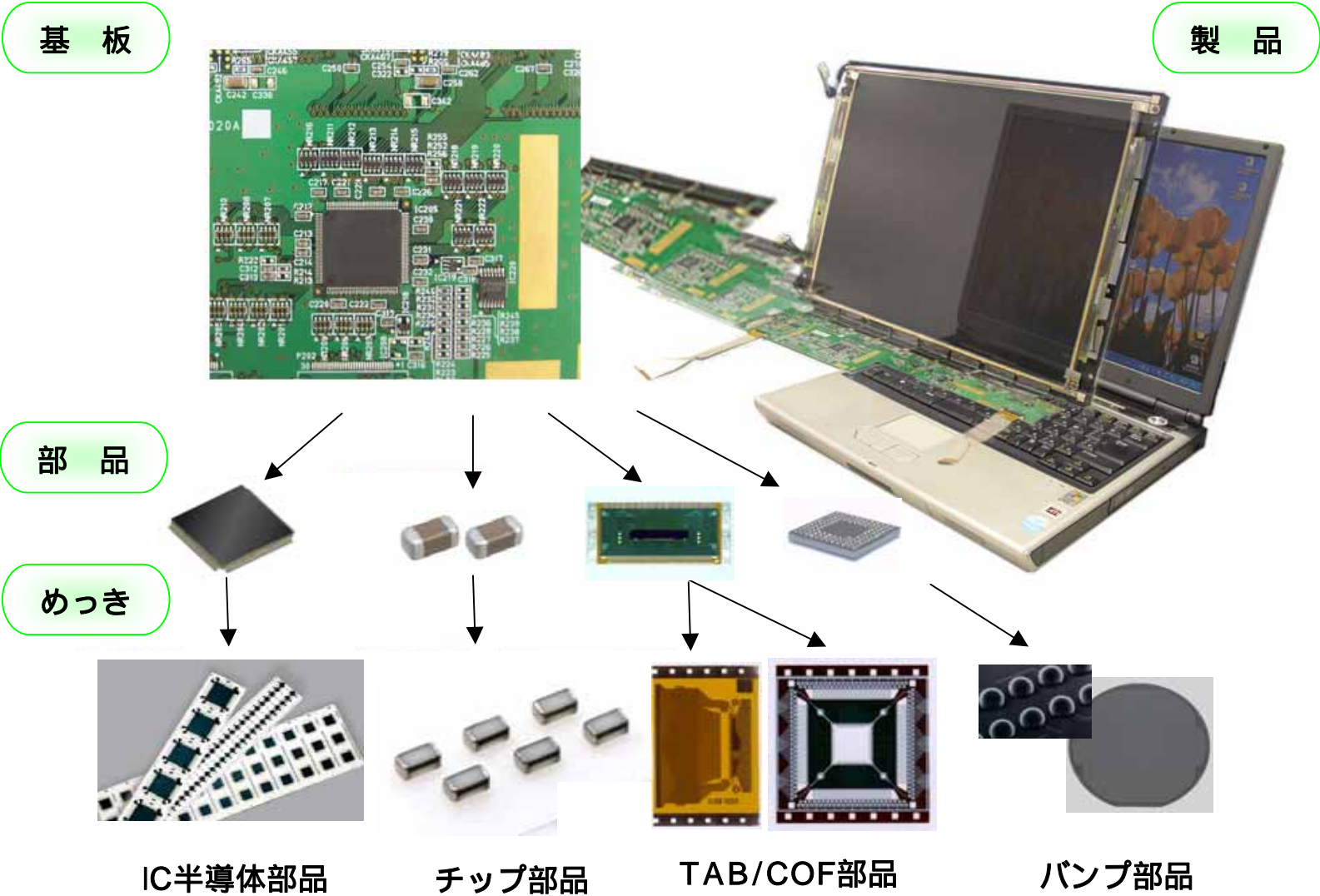
技術動向

- はんだめっきの技術動向

新製品開発の状況

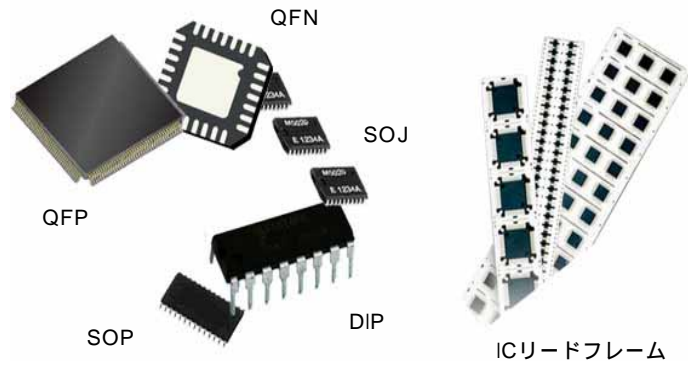
- ナノ金属を用いて新しい電子回路の形成材料をつくる研究。
実用化を目指した応用研究段階にある。
- 銅めっきの研究。
回路形成用銅めっき等の研究は順調。

めっき製品紹介

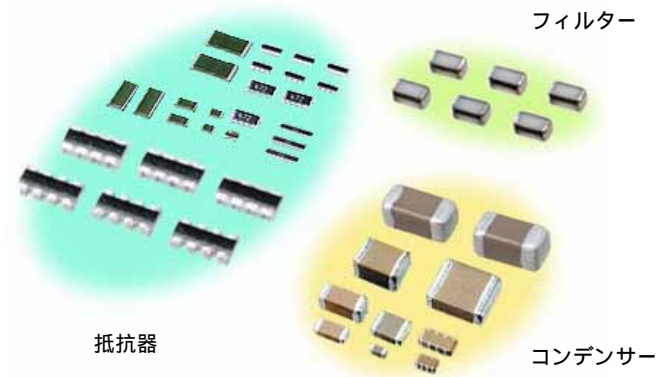


部品紹介

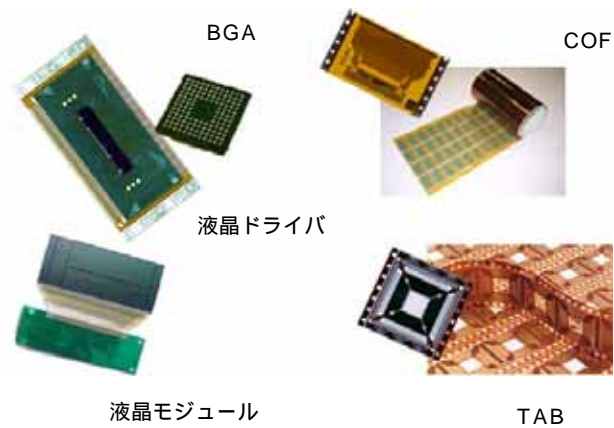
IC半導体部品



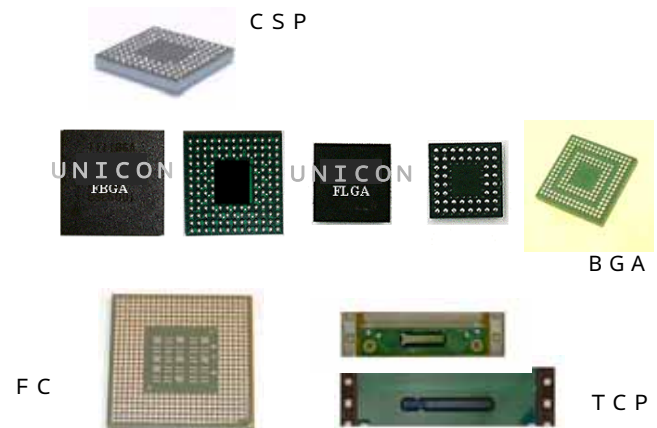
チップ部品



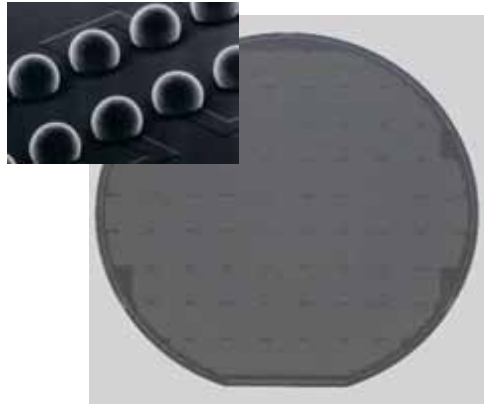
TAB / COF 部品



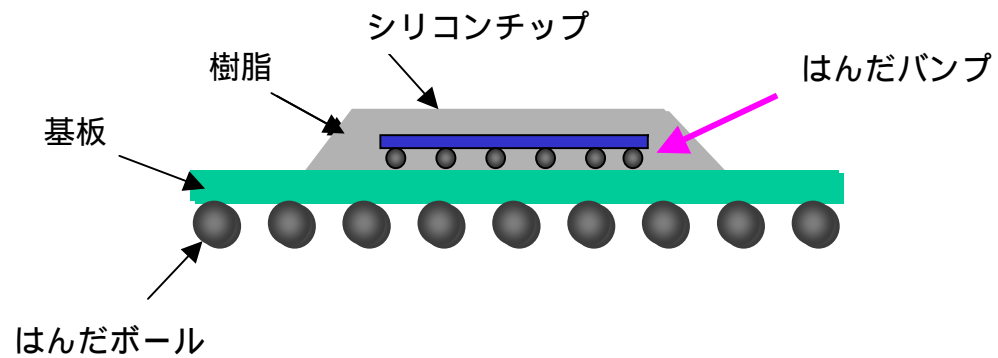
バンブ使用部品



はんだバンプを使用したBGAパッケージの構造

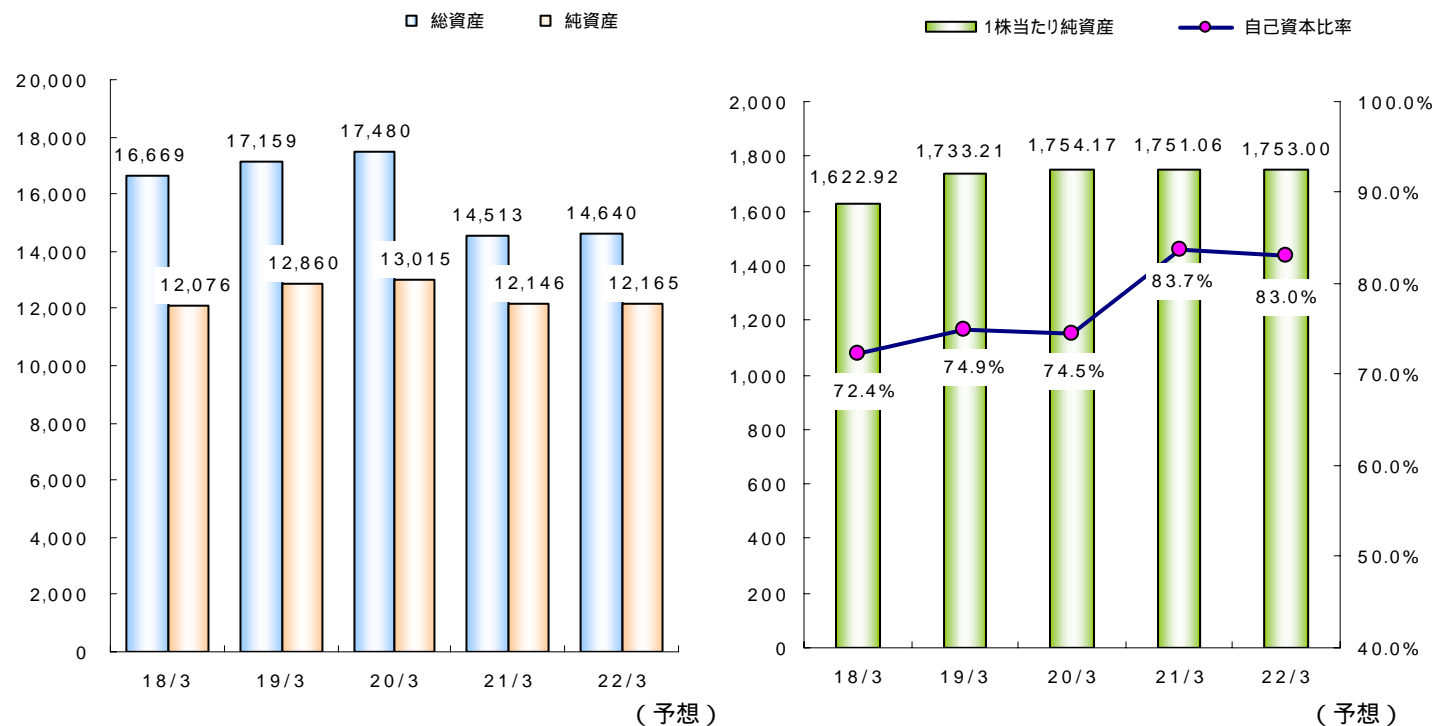


ウェハー



総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

		18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (予想)
総資産	[Total Assets] (百万円)	16,669	17,159	17,480	14,513	14,640
純資産	[Shareholders Equity] (百万円)	12,076	12,860	13,015	12,146	12,165
1株当たり純資産	[BPS] (円)	1,622.92	1,733.21	1,754.17	1,751.06	1,753.00
自己資本比率	[Equity Ratio] (%)	72.4%	74.9%	74.5%	83.7%	83.0%



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

平成21年6月

石原薬品株式会社

(大証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>